

Beyond 5G 推進コンソーシアム 企画・戦略委員会
白書分科会（第7回）ビジョン作業班（第11回）／技術作業班（第8回）
議事要旨

1. 日 時： 令和3年10月26日（火）15:00～18:00
2. 場 所： ウェブ会議（WebEx）
3. 出席者：
中村主査（NTT ドコモ）、
ビジョン作業班 小西リーダー（KDDI）、永田サブリーダー（NTT ドコモ）、
技術作業班 中村リーダー（富士通）、下西サブリーダー（NEC）、
WP5D 対応 Ad hoc 菅田主査（KDDI）、武次副主査（NEC）、
ほか、通信事業者、メーカ等、計 80 名
（事務局）総務省移動通信課新世代移動通信システム推進室
井出室長、江原課長補佐、守屋係長、杉山官

4. 議事要旨

冒頭、会議開催に先立ち、中村主査から挨拶があった。

（1）前回会合（第6回）の議事要旨について

事務局から、資料1 白書分科会第6回議事要旨について説明。修正があれば、10月29日（金）までに事務局へ連絡してほしい旨説明。（追記：結果的にコメントはなかったため、原案で承認。）

（2）WP5D 対応 Ad hoc について

菅田 WP5D 対応 Ad hoc 主査、武次 WP5D 対応 Ad hoc 副主査から資料2-1 WP5D 対応 Ad hoc (Vision)、2-2 WP5D 対応 Ad hoc (FTT)、資料2-3 FTT 提案件数について説明。質疑応答は以下のとおり。

小西リーダー：白書のユースケースの文量は、ITU-R を意識して抑えた方が良いか。

菅田 WP5D 対応 Ad hoc 主査：白書分科会は、あくまで日本が将来のユースケースを考えるものなので、ITU-R を意識する必要は無いが、日本として主張する点は ITU-R でも主張するべきである。そのためには、ITU-R の指示に沿った記載が求められる。限られたページ数で、文章と図を用いて綺麗に表現できると良い。

永田サブリーダー：KPI の数が増加している。KPI の数が増えると、まとめるのが困難なため、提案条件の締切、精査時期等、全体のスケジュールを教えてください。

菅田 WP5D 対応 Ad hoc 主査：最終的な提案時期は、2023年6月である。要求条件は、約

1年の間に絞り込む必要がある。具体的な数字は、WG Technology aspectで議論し、3GPPに最低条件を満たす技術を提案する。最低条件をまとめるのは、2024年、2025年になるのが通例である。

永田サブリーダー：Usage Scenariosの図から要求条件を絞り込むのか。

菅田 WP5D 対応 Ad hoc 主査：然り。しかし、WP5Dでは、Usage Scenariosを全て満たす必要はない。Usage Scenariosを参考にして、どのように提案するのか議論する。

中村主査：11月の白書分科会で対処方針が議論できるようにまとめてほしい。2月のWP5Dでは白書に関する寄与文書を入力しないのも一案である。一方、積極的に寄与文書を入力してくる国もいる。対応について検討してほしい。早く寄与文書を入力した方が良いのか。

菅田 WP5D 対応 Ad hoc 主査：先に寄与文書を入力した方が有利である。的外れなことを言わない限り、草案を土台に議論が展開される。ドラスティックな変更がされることは稀である。合意が得られるかは別の話である。

早稲田大佐藤氏：大学は寄与文書の入力は可能か。

武次 WP5D 対応 Ad hoc 副主査：白書分科会に加入すれば、白書分科会経由で日本として寄与文書を入力することは可能である。大学が単独でITU-Rに寄与文書を入力するのは難しい。寄与文書の中身を議論する際に協力をお願いしたい。

中村主査：データを持っている大学や企業と議論する予定のため、その際にはお力添えいただきたい。

菅田 WP5D 対応 Ad hoc 主査：参考までに、中国の大学が寄与文書を入力している事例もある。

早稲田大佐藤氏：承知した。

中村主査：技術作業班でテキスト入力が必要な項目は、優先的に取り組んでほしい。

中村リーダー：承知した。武次 WP5D 対応 Ad hoc 副主査と相談する。

菅田 WP5D 対応 Ad hoc 主査：FTT関連は件数が多くなっている。負担を減らすためにエッセンスごとにまとめたい。

中村主査：その点については、WP5D 対応 Ad hocで議論していただきたい。

中村リーダー：データについては学术论文を参考にさせてもらう。

武次 WP5D 対応 Ad hoc 副主査：測定結果の詳細を記載している。

中村リーダー：最低条件、考察の情報を記載し、残りは意見を記載するつもりである。

菅田 WP5D 対応 Ad hoc 主査：ITU-Rでは、利用周波だけでなく、チャンネルモデルまで示す必要がある。

中村リーダー：チャンネルモデルの議論はすぐにするべきか。

菅田 WP5D 対応 Ad hoc 主査：すぐでなくて良い。今後、議論するべきであることを理解しておいてほしい。

(3) Beyond 5G 国際カンファレンスについて

事務局から、資料3 Beyond 5G 国際カンファレンス資料について説明。質疑応答は以下

のとおり。

中村主査：申込みは Beyond 5G コンソーシアム非会員でも可能か。

事務局：可能である。

菅田 WP5D 対応 Ad hoc 主査：現地参加の上限は何人か。

事務局：300 人である。

菅田 WP5D 対応 Ad hoc 主査：申込完了後、予約券が発行されるのか。

事務局：現地とオンライン、どちらの参加の場合も確定通知が発行される。

(4) ビジョン作業班（第 11 回）について

小西リーダーから、資料 4 ビジョン作業班資料について説明。質疑応答は以下のとおり。

菅田 WP5D 対応 Ad hoc 主査：3GPP の指標はあるものの、ユースケースを 5 G と Beyond 5G のどちらの技術が必要か判断するのは難しいと思う。

小西リーダー：二つの視点で考えるべきである。3GPP の定義だけでは拾えないものもある。ユースケースは通信分野だけでなく、他業界の技術の発展も考慮すべきである。一方、IMT2020 で定義されているものはその定義に従うべきである。例えば「5 G で何ミリ秒以下の低遅延を実現した」と定義があると仮定する。それ以上の低遅延が必要であれば、Beyond 5G が必要である。必ずしも IMT2020 の定義に囚われる必要はない。

クアルコム武田氏：すみ分けを考えることは大切である。特に通信分野は必要な技術を断定することが難しい。例えば、衛星通信は 3 G でも実現は可能だが、適切でない。ユースケースは、個人間で多少認識違いが生じるかもしれない。IMT2020 で定義されている基準を共通認識とすることは賛成である。

(5) 技術作業班（第 8 回）について

中村リーダーから、資料 5 技術作業班資料について説明。技術作業班メンバーから各章の進捗状況の説明を行った。各説明に質疑応答はなかった。今後の予定については以下のとおり。

中村リーダー：本日、発表した資料は共有ファイルにアップロードしてほしい。10 月末に 0.4 版、来年 1 月末に 0.5 版を執筆完了予定。共有ファイルに用語一覧様式を格納しているので、適宜参考にしてほしい。

(6) 著作物の扱いについて

中村リーダーから資料 6-1 著作物を引用する場合のガイドライン（案）、資料 6-2【参考】文化庁資料について説明。質疑応答は以下のとおり。

永田サブリーダー：国（各省庁）作成の資料も取扱いを注意すべきか。

中村リーダー：国作成の資料であっても著作権については慎重に判断してほしい。

中村主査：懸念点がある場合は、白書分科会内で相談してほしい。

（7）今後のスケジュールについて

事務局から資料7今後のスケジュールについてについて説明した。次回会合は11月30日（火）15：00から開催予定。

以 上